

令和元年10月23日

地域経済産業調査（令和元年7-9月期）結果

〈全体の動向〉

今期（7-9月期）の近畿地域の経済は、緩やかに改善している。

生産は、電気・情報通信機械は、車載向け部品やパソコン等により増加。汎用・業務用機械は、コンベヤ等により堅調。輸送機械は、引き続き高水準で推移。一方、生産用機械は、工作機械等の需要減少等により弱含み。総じて、生産は緩やかな持ち直しの動きにあるものの、在庫調整や中国経済の減速の影響により、一服感がみられる。

設備投資は、一部において先送りや下方修正の動きがみられるものの、製造業では、設備の維持・更新や生産能力の増強及び省力化を中心に、多くの企業で昨年度並みか昨年度以上の設備投資を見込んでいる。非製造業では、小売業で新規出店が見込まれるほか、消費税増税対応を含めたシステム投資がみられる。

雇用情勢は、製造業では、IoTやAI関係を中心とした技術者が特に不足しており、小売業やサービス業などでは、パート・アルバイトの確保が困難な状況が続いている。人手不足の対策として、雇用環境の改善や省力化を推進するとともに、外国人・高齢者など多様な人材を活用することなどがみられる。また、採用は新規・中途ともに人材の獲得競争が厳しい状況が続いている。

個人消費は、百貨店は、堅調な高額品に加え、昨年のも台風の反動増も寄与。スーパーは、天候不順要因により食品、衣料品、住居関連品ともに季節商材に厳しい動き。家電販売は、エアコンを始め、洗濯機、冷蔵庫などの白物家電やテレビ、パソコンが大幅増加。新車販売は、普通車、軽乗用車が好調持続。インバウンド消費は、韓国、香港の動向に不安が見られるものの、総じて売上げは堅調に推移。

〈個別の動向〉

- (1) 生産：緩やかな持ち直しの動きに一服感
- (2) 設備投資：増加している
- (3) 雇用情勢：改善しており、労働需給の引き締まりがみられる
- (4) 個人消費：緩やかに改善している

〈これまでの基調判断の推移〉

	平成30年7-9月	平成30年10-12月	平成31年1-3月	平成31年4月- 令和元年6月	令和元年7-9月
全国	→	→	↘	→	→
	緩やかに改善している	緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している
近畿	→	→	↘	↗	→
	緩やかに改善している	緩やかに改善している	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している

（参考）今回、本調査の対象機関（102）、実施期間（令和元年8月28日～9月27日）

（本件のお問い合わせ先）

近畿経済産業局総務企画部企画調査課長 山本

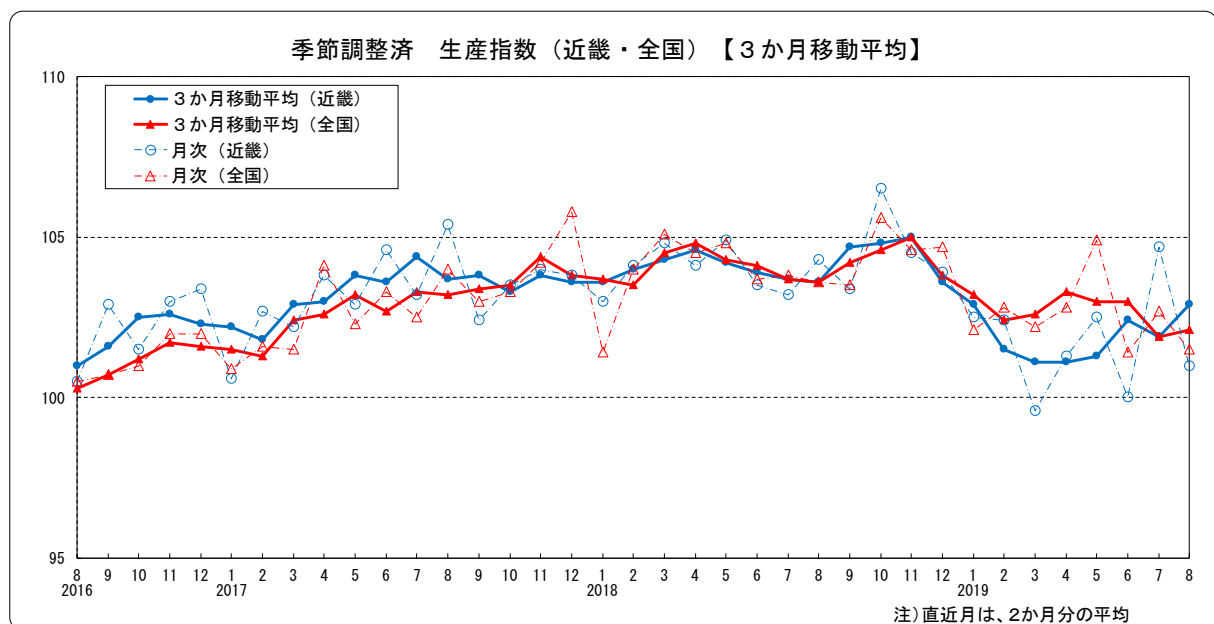
担当：有馬、田中 電話：06-6966-6004

生産 ～緩やかな持ち直しの動きに一服感～

電気・情報通信機械は、車載向け部品やノート型パソコン等により増加。汎用・業務用機械は、コンベヤ等により堅調。輸送機械は、引き続き高水準で推移。一方、生産用機械は、工作機械、産業機械等の需要減少等の影響により弱含んでいる。総じて、生産は緩やかな持ち直しの動きにあるものの、在庫増による在庫調整の声や中国経済の減速による影響が聞かれるなど、一服感がみられる。

【企業の生の声】

- 車載機器は引き合い強く需要増である。 【電気機器】
- パソコンは、国内が強く堅調。 【電気機器】
- eコマースの伸びに伴う物流拠点のニーズは依然として高い。専門量販店がネット通販を強化しており、物流拠点の整備に伴う大型案件が出ている。 【業務用機械器具】
- 国内の自動車は今が良い状態で推移している。海外向けが現地生産化しても、国内向けの生産は今後も落ちないと思う。 【輸送用機器】
- △産業機械、工作機械等の需要が落ち込んでいる一方、電磁鋼板など伸びている分野もあり、全体としては4月以降横ばいの印象。 【鉄鋼】
- △米中貿易摩擦の収束が見えず、不透明感が多すぎる。海外では中国やアジア全般の受注が悪くなってきた。中国で落ちている内容は自動車向けが多い。 【生産用機械器具】
- ×生産は売上より減らしている。4～6月期で需要が減ったため在庫が積み上がった。現在、在庫調整をしているところ。 【はん用機械器具】
- ×中国内の新車販売が悪い。2桁レベルのマイナスで推移している。中国内のマイナス成長は当社にも影響がある。 【電子部品・デバイス】



(注) 近畿・全国：平成27年基準（平成27年＝100）

データ出所：近畿経済産業局「近畿地域鉱工業生産動向」

設備投資 ～増加している～

一部において先送りや下方修正の動きがみられるものの、製造業では、設備の維持・更新や生産能力の増強及び省力化を中心に、多くの企業で昨年度並みか昨年度以上の設備投資を見込んでいる。非製造業では、小売業で新規出店が見込まれるほか、消費税増税対応を含めたシステム投資がみられる。

【企業の生の声】

- 連結で80億円規模を予定。前年の67億円から2割増。組立工程にロボットを入れる予定。人手不足に対応するため、省力化が必要。 【金属製品】
- 昨年度から約2割増。伸びた部分は、中国の化学（半導体関係）工場の増強、その他アジア地域の物流整備を含めた生産設備増強。 【電気機器】
- 増税前の6月と9月に設備を購入。9月には設備1台の機能更新も実施。
【プラスチック製品】
- △計画は据え置き予定。ただ、毎月の業況を見ていると芳しくないため、足元の投資先送りの可能性はある。 【電子部品・デバイス】
- △デジタルプリンタについては予定より半年ほど遅れており、年内の調達は厳しい。来年の春くらいになる見込み。機器の設計や調整で時間がかかっている。
【繊維工業】
- 全体6分の1程度がシステム投資。新設への投資は半分ほど。新規出店も行うが、方針としては既存店の改修に力を入れていく。ただし、新規出店については、建設資材の高騰もあり、投資コストが嵩む。 【各種小売業】
- 今年度の設備投資計画は予定通り。20数億かけて大幅な改装予定。その他消費税増税対応やグループ店との統合など、システム更新の投資も実施。 【各種小売業】
- 昨年度は137億円。今年は153億円の予定。近畿地域の新規出店は4店。そのほかに移転が2店舗、閉鎖が4店舗。 【機械器具小売業】
- △投資額は変更なし。新店は5店舗程度。そのうち3店舗が近畿地域。
【機械器具小売業】
- ×中国の国策である補助金による助成が終わり、一時期よりも設備投資の勢いが落ちた。受注している案件の中には「先送り」の申し出もあった。 【生産用機械器具】

全国企業短期経済観測調査

(前年度(前年同期)比:%)

	近 畿						全 国					
	2018年度			2019年度(計画)			2018年度			2019年度(計画)		
	上期	下期	下期(計画)	上期(計画)	下期(計画)	上期	下期	下期(計画)	上期(計画)	下期(計画)		
全産業	9.5	▲ 0.5	17.7	7.1	20.7	▲ 2.3	6.6	8.0	5.5	2.4	6.1	▲ 0.3
製造業	2.4	▲ 2.0	6.3	11.3	18.6	5.3	8.6	10.5	7.1	7.3	9.1	5.8
大企業	1.0	▲ 2.7	4.3	12.4	20.5	5.6	7.0	9.1	5.3	11.8	14.0	10.0
中堅企業	16.1	▲ 3.2	36.2	6.3	8.5	4.7	6.4	10.7	2.9	▲ 1.1	▲ 7.2	4.2
中小企業	12.8	20.8	6.3	▲ 5.4	▲ 9.6	▲ 1.6	17.2	15.1	18.8	▲ 0.1	8.8	▲ 7.1
非製造業	15.3	0.8	26.3	4.1	22.5	▲ 7.1	5.4	6.5	4.6	▲ 0.4	4.2	▲ 3.7
大企業	15.4	1.4	25.6	5.0	25.1	▲ 6.8	7.4	6.2	8.2	3.6	7.8	0.9
中堅企業	20.4	5.4	34.3	▲ 1.4	5.4	▲ 6.4	9.5	25.4	▲ 0.5	▲ 5.4	▲ 2.3	▲ 7.9
中小企業	▲ 10.8	▲ 29.6	11.6	5.6	43.7	▲ 24.7	▲ 4.4	▲ 5.3	▲ 3.6	▲ 10.5	▲ 1.4	▲ 18.2

データ出所: 日本銀行(含む 土地投資額)

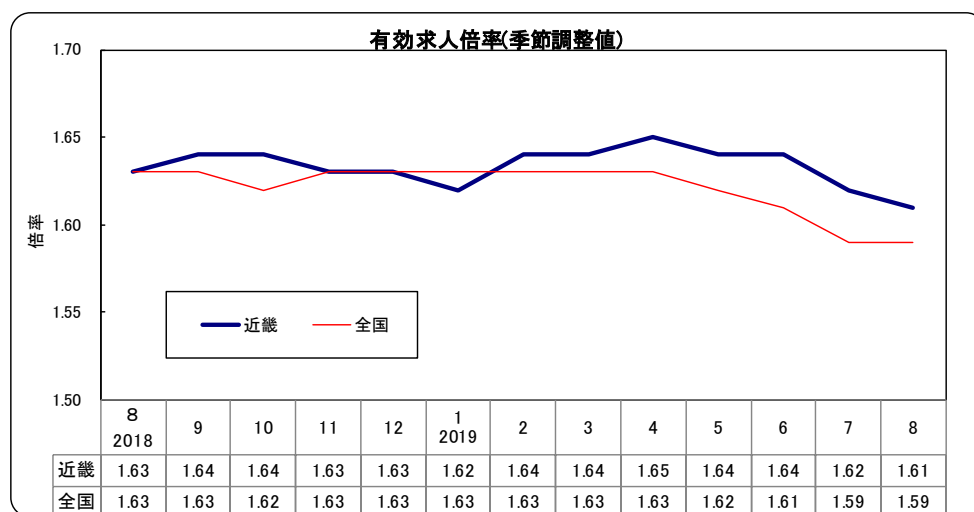
(大企業: 資本金10億円以上、中堅企業: 同1億円~10億円未満、中小企業: 同2千万円~1億円未満)

雇用情勢 ～改善しており、労働需給の引き締まりがみられる～

製造業では、IoT や AI 関係を中心とした技術者が特に不足しており、小売業やサービス業などでは、パート・アルバイトの確保が困難な状況が続いている。人手不足の対策として、雇用環境の改善や省力化を推進するとともに、外国人・高齢者など多様な人材を活用することなどがみられる。また、採用は新規・中途ともに人材の獲得競争が厳しい状況が続いている。

【企業の生の声】

- ・どの業界にもいえることだが、IT 系人材が特に不足している。また、生産ラインの立ち上げにかかる技術者や、マネジメント人材などについても不足している。
【電子部品・デバイス】
- ・パート・アルバイトの募集をしても、応募が少ない状況。もともと小売業は敬遠されがちであり、それに加え競合店の出店により人員を奪われている。【各種小売業】
- ・タブレット導入による検査作業の時間短縮や、ロボットによる人手不足対応を試みている。
【総合工事業】
- ・人手不足のためという理由に加えて、経験のある優秀な人材に残って貰うためにもパートの年齢制限を緩和した。
【化学】
- ・外国人を積極的に採用している。ベトナム、ロシア、インドネシアそれに、韓国や台湾といったところから採用している。
【宿泊業】
- ・女性の採用人数を増やしており、相対的に割合が増えている。一過性のものにするのではなく、環境や制度を整えて長くサポートしていかないと、出産育児等で退職してしまう可能性がある。
【ゴム製品】
- ・来年度採用については、今年と同程度を予定していたが、予定数を割り込む見込み。シニアの活用も増えていることから、これまでよりも採用ペースは落ちるかもしれない。
【各種小売業】
- ・人手不足の影響か、これまで大卒を採っていた企業が高卒採用で競合するようになった。今年の変化で人手不足の影響を感じた。
【食料品製造業】
- ・新卒採用は、複数内定者の辞退等が多く悩んでいる。
【生産用機械器具】
- ・中途採用にも力を入れているが、欲しいと思う人材はなかなか取れない。【化学】



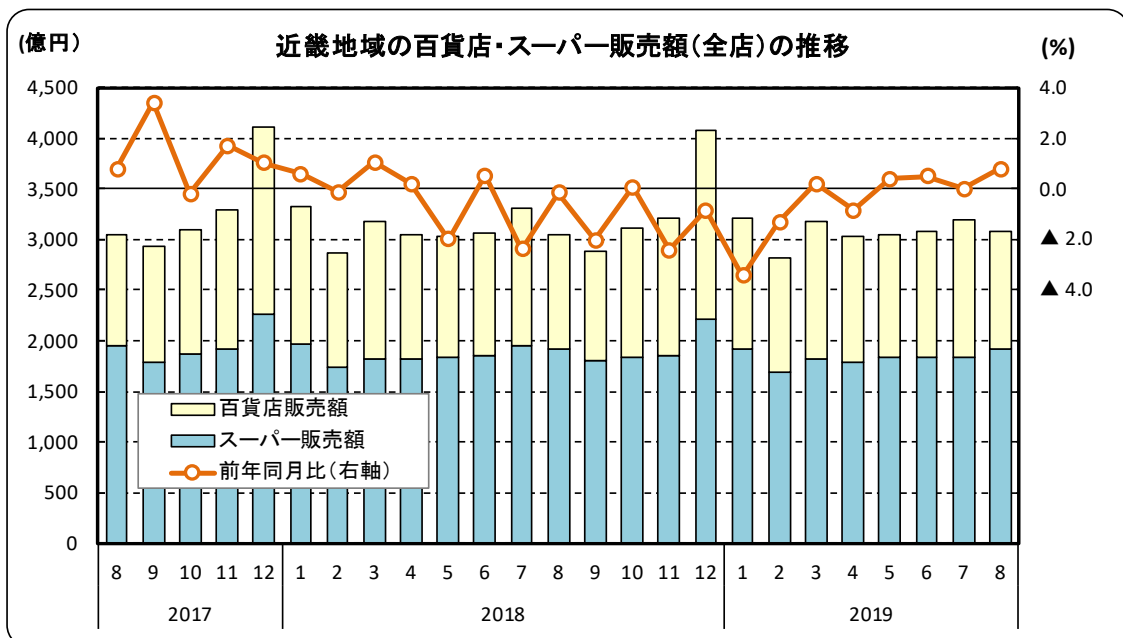
データ出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」

個人消費 ～緩やかに改善している～

百貨店は、堅調な高額品に加え、昨年の台風の反動増も寄与。スーパーは、天候不順要因により食品、衣料品、住居関連品ともに季節商材に厳しい動き。家電販売は、エアコンを始め、洗濯機、冷蔵庫などの白物家電やテレビ、パソコンが大幅増加。新車販売は、普通車、軽乗用車が好調持続。インバウンド消費は、韓国、香港の動向に不安が見られるものの、総じて売上げは堅調に推移。

【企業の生の声】

- 業況は良いが、去年が地震や台風等で営業時間が短くなった反動もある。8月上旬は気温高による盛夏アイテムの伸長や曜日まわりのプラス効果もあり概ね好調に推移した。 【各種小売業】
- ×7月と8月は落ち込みが大きい。天候が良くなかったことや気温が低かったことが主な要因。 【各種小売業】
- エアコンは、7月は不調だったが9月は大きく伸びている。TV、洗濯機、冷蔵庫、PCも非常に好調。PCはウインドウズ7のサポート終了による買換え需要、TVはエコポイントの際の購入からの買換え需要もある。 【機械器具小売業】
- 業況は良い。乗用車は8月単月で約10%増、7～8月累計でも5%弱増加と好調。9月も好調を維持している様子。 【その他事業サービス業】
- 韓国・香港からの観光客については社会情勢から減少しているが、中国を中心としたその他のアジア地域からは順調に推移。 【運輸サービス業】
- △韓国人宿泊客が多い兵庫県内の施設では、韓国人の宿泊客は全く来ない。四国内の旅館では一定数減っているが、他の国からの宿泊客が増えているため影響ない。 【宿泊業】



データ出所：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」